

DOVAL 小史

DOVAL 曲線が生まれて何年たつだろうか、此が意外と難しい問題である。現在、WEB に最大の DOVAL のデータベースが、<http://ebisuihirotaka.biz/DOVAL/> に存在するが、その歴史は、DOVAL の定義点と円からの距離の比が一定な曲線の歴史が物語る。点と点からの距離の比が一定な曲線が、アポロニウスの円として、存在しており、早、2000 年前のギリシャ時代に、点と円からの距離の比が一定な曲線が、考えられていたかもしれない。しかし、それを形として、描くことが、できたのは、1600 年代のデカルトの幾何学に繰り上がる。そして、座標系で表されたのは、ロックウッド氏の”カーブ”；みすず書房に訳本；における双極座標が、初めてだろう。現在、蛭子井博孝は、運動幾何学で描ける方法を、同値な 7 方法として、見つけている。そして、楕円の一般化として捉え、アナロジーな方法で、多くの DOVAL の性質を見つけている。左右離心率が、DOVAL の形を決めるという、楕円の同一 1 離心率から左右 2 離心率曲線が、生まれている。これだけでも、曲線論の大躍進といえる。ここで、第三論文 DOVAL の縮閉線に触れる。卵形線は、幾何学大事典で、岩田至康先生が、取り扱ってくれなかったのは、甚だ遺憾であるが、縮閉線の式の導出は、お褒めにあずかった。今視して思えば、Maple の数式処理で、出せるが、当時、手計算であった。さて、ここらで、第一期、DOVAL 小史を終わる。